

(別添1)

平成18年度事業報告書

平成18年4月1日から

平成19年3月31日まで

当財団法人は、産業廃棄物の適正な処理、その他廃棄物に関する各種事業を行うことにより、県民の生活環境の保全と公衆衛生の向上に寄与することを目的に設立された法人であり、適正な廃棄物処理に万全を期して県民に信頼される廃棄物処理センターとして受け入れを促進し、関係法令等を遵守した適正な処理を行うとともに、廃棄物の適正処理に関する情報の発信や啓発事業に取り組み、県民の快適な生活環境の向上に努めた。

1 公益事業

(1) 情報公開

財団法人の組織や施設の概要、利用者・見学者への案内等について情報発信を行うため、ホームページを開設している。

17年度から、産業廃棄物に関する解説や環境測定結果等の情報を公開している。

また、施設の見学案内を掲載し、ホームページで申し込めるサービスを開始し利用者の便宜を図っている。

主な掲載項目

- ・ 事業団概要、施設概要、利用案内、施設見学案内
- ・ 種類毎の受入基準、搬入予約、申込書等諸様式
- ・ 事業報告書、寄附行為、経営改善計画書
- ・ 環境測定結果、廃棄物一口メモ、廃棄物Q & A

(2) 廃棄物の適正処理に関する啓発

保健衛生イベントにおいて、不法投棄の防止と最終処分場の現状やリサイクル製品推進事例、廃棄物サンプル等を紹介し、環境保全への意識高揚及びリサイクルの促進に取り組んだ。

また、啓発活動を充実するため、新たに啓発用パネルを2枚(A0判)作成した。

ア 出展・展示の実績

- ・ 6月 岩手県環境保健研究センター 特別シンポジウム
希少植物移植会
- ・ 7月 施設公開
- ・ 9月 奥州市保健衛生大会

イ パネルの掲載内容

- ・ 廃棄物の定義と種類
- ・ 産業廃棄物と一般廃棄物
- ・ リサイクル事業例
- ・ 廃棄物の受入実績
- ・ 環境測定結果(排ガス、処理水、地下水)
- ・ 埋立処分場の種類

(3) その他視察等に対する啓発活動

県内外からの視察者（平成 18 年度 964 名）に対する当センターでの処理状況の説明や、電話等による廃棄物処理相談に対する処理方法の指導及びリサイクル事業への取り組み事例等の紹介などにより普及啓発活動を行った。

(4) 理事会開催

開催月日	会議名	開催場所	会議議題等
平成 18 年 5 月 29 日	第 33 回理事会	岩手県民会館	1 平成 17 年度事業報告及び収支決算 2 資産の総額の変更 3 副理事長の選任 4 評議員の選出
平成 19 年 3 月 20 日	第 34 回理事会	岩手県民会館	1 平成 18 年度収支補正予算 2 中期経営計画書 3 平成 19 年度事業計画及び収支予算 4 平成 19 年度短期借入金の借入限度額 5 平成 19 年度長期借入金の借入限度額及び担保の提供 6 評議員の選出 7 規程の一部改正

(5) 評議員会開催

開催月日	会議名	開催場所	会議議題等
平成 18 年 5 月 22 日	第 16 回 評議員会	岩手県民会館	1 平成 17 年度事業報告及び収支決算 3 資産の総額の変更 4 役員の選任 5 規程の一部改正
平成 19 年 3 月 18 日	第 17 回 評議員会	岩手県民会館	1 平成 18 年度収支補正予算 2 中期経営計画書 (平成 19 年度～平成 21 年度) 3 平成 19 年度事業計画及び収支予算 4 平成 19 年度短期借入金の借入限度額 5 平成 19 年度長期借入金の借入限度額及び担保の提供 6 役員の選任 7 規程の一部改正

2 廃棄物処理事業

(1) 適正な廃棄物処理

平成 18 年度は、243 日廃棄物を受け入れ、受入量は 5 5 , 0 9 1 トン(前年度比較 6,340 ト増)で、1 日平均受入量は 2 2 6 . 7 1 トン(前年度比較 25.27 ト増)となった。

これは、昨年 9 月、北上市の民間廃棄物焼却施設が火災によって搬入停止したことから、焼却物が大幅に増加した。特に、医療廃棄物が大幅な増加となった。

また、減少したのは、木くずや燃え殻で、これはバイオマスボイラー等の燃料としてリサイクル利用が進んできたことによるものと考えられる。

なお、県民の環境保全意識の向上や排出事業者の廃棄物の多様化により利用件数も増加し、契約件数は平成 18 年度末で 8,893 件(前年度比較 1,479 件増)となった。

(別表 - 平成 18 年度廃棄物受入実績)

(2) 施設・設備の整備

ア 希少植物調査・移植及び猛禽類調査

整備予定地に生育する希少植物の生育状況を調査し、その一部を新たに整備したビオトープに移植した。

また、区域周辺に飛来する猛禽類の繁殖状況を調査した。

4,893 千円

イ 嵩上げ埋立工事

受入量の増加を図るため、既存処分施設の区画変更を行う天端標高 104 m の盛土堤を構築した。

34,221 千円

ウ 排ガス中塩化水素濃度測定装置の更新

焼却施設(主炉、副炉)の排ガス中塩化水素濃度測定装置が、経年劣化による故障が危惧されること及び測定の信頼性を確保するため更新を行った。

なお、同時に副炉に、煤塵濃度計を設置した。(主炉 平成 13 年度整備済)

15,540 千円

3 第 期最終処分場整備事業

(1) 土木本体工事

平成 18 年度から平成 20 年度までに埋立容量 727,000 m³ の最終処分場を整備するための工事に着手した。

平成 18 年度 93,403 千円(18~20 年度 2,866,500 千円)

(2) 浸出水処理施設工事

平成 18 年度から平成 20 年度までに浸出水処理能力 150 m³/日の浸出水処理施設を整備するため、平成 18 年度は詳細設計を行った。

平成 18 年度事業費なし(19~20 年度 1,247,400 千円)